



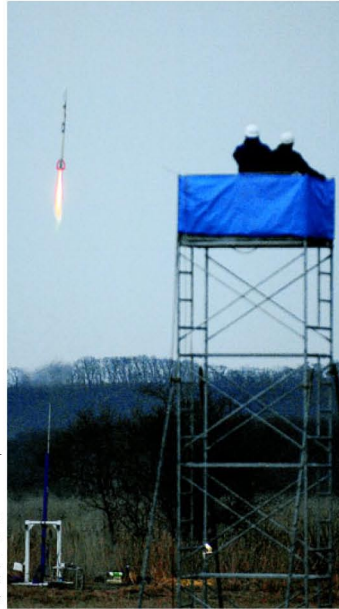
2008年(平成20年) 12月21日 日曜日

発行所:十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表)0155-22-2121

カムイロケット

緊急減速に成功

HASTICで高速時の機能確認



せん光とともに打ち上げられるカムイロケット(21日午前7時ごろ、金野和彦撮影)

【大樹】NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC、札幌)は21日午前、道産小型ロケット「CAMUI(カムイ)90-1P」の打ち上げ実験を大樹町多目的航空公園付近で実施した。緊急時の減速試験など6基を打ち上げ、いずれも計画通りの高度と軌道を描いて成功した。

カムイは液体酸素とポリエリッドロケット。火薬を使わず、チレンを推進剤とするハイブなため安全とされ、2

002年から大樹で打ち上げ実験を行っている。今回は高速飛行時の技術機能の確認が目的。全長2.9メートル、重量約20キログラムのロケットを用意、スタッフ34人が19日に大樹入りし、準備に当たった。

この日は風が弱く実験に適した天候。午前7時、1基目

を打ち上げ、初めて加速度や燃焼圧力などの計器を搭載したロケットは高度1キ近くまで到達、発射点から海側約800メートルの地点に落下した。2基目は緊急時を想定。加速中の6秒後に地上から機体に指令を出し、上空350メートル

制的にパラシュートを開き減速させる試験に成功した。実験は午前11時半までに終了。打ち上げ実施責任者の永田晴紀・北大大学院教授は「目的を達成できた。極めてうまくいき、満足している」と話した。

同じく実施責任者のカムイスペースワークス(赤平市)の植松努社長は「来年度も(実験を)続けたい」とし、伊藤「HASTIC理事長は「大きな手応えをつかんだ」と話した。」(北雅貴)